

酪農乳業の次の担い手育成や持続可能な取り組みを支援します

Jミルクの「酪農乳業産業基盤強化特別対策事業」では、酪農生産基盤の強化と国産牛乳乳製品の高付加価値化の両面から、酪農乳業の現場を支援しています。2020年度からは生産基盤強化策の一つとして、新規就農を目指す人々や酪農後継者の研修の場づくりを助成する、担い手育成支援事業がスタート。こうした助成事業や地域のサポートを得ながら、若い世代が酪農家としての一歩を踏み出しています。

2020年度「研修支援」事業活用に インタビュー



横山 慎弥 (よこやま しんや) さん・芽依 (めい) さん (北海道・北はるか農協)

千葉県出身の横山慎弥さんと東京都出身の芽依さんのご夫婦。自給飼料生産へのこだわりから、まとまった土地が手に入りやすい北海道を選び、数年間の研修を経て昨年11月に中川町で新規就農しました。「新規就農者は当初の運転資金に不安があるので、Jミルクの助成事業や行政などの支援事業はありがたい」というお二人。世界的に環境への関心が高まっている中、酪農のイメージ向上も意識して、循環型の放牧酪農を行うことが目標です。「地域の皆さんのさまざまな助けがあって、この地で酪農を始めることができました。今後経営が軌道に乗って落ち着いたら、私たち同様、酪農に新規参入したい方たちの力になりたいです」と語ってくれました。



小川 翔吾 (おがわ しょうご) さん (神奈川県・JA全農かながわ)

神奈川県の実業家出身の小川さんは、大学での実習や東京・神奈川での牧場勤務を経て経営者を志し、後継者を探していた秦野市の小林牧場で第三者継承を目指すことにしました。昨年10月から同牧場で働き始め、今年4月に経営を継承。こうした形態での新規就農は県内では珍しく、さまざまな機関の支援や人とのつながりがあったからこそ実現できたと振り返ります。「まずは食品を扱う仕事であることを強く意識しながら、経営を安定させたい」という小川さん。「将来は、就農希望の方たちを支援したり、消費者交流にも興味があります。若い世代の就農を支援するJミルクの助成事業をもっと多くの人たちにも知ってほしいです」と話してくれました。



2020年度の実績報告

① 酪農生産基盤強化総合対策事業(生産者向け助成事業)

112団体から申請があり、助成金額の合計は211,477千円(北海道89,984千円、都府県118,433千円、その他(全酪連等)3,060千円)となりました。コロナ禍の中、5か年事業の初年度でしたが、新たなメニューである「担い手育成対策」などへの積極的な申請をいただきました。

② 国産牛乳乳製品高付加価値化事業(乳業者向け助成事業)

「技術・人材開発研修等」で3団体に対し計596千円を支援。さらに、1団体から「地域連携商品開発等」で2か年事業の申請があり、現在実施中です。

2021年度は昨年を大幅に上回る申請をいただいております！
詳細はWEBサイトをご覧ください

Jミルク 生産基盤

検索

